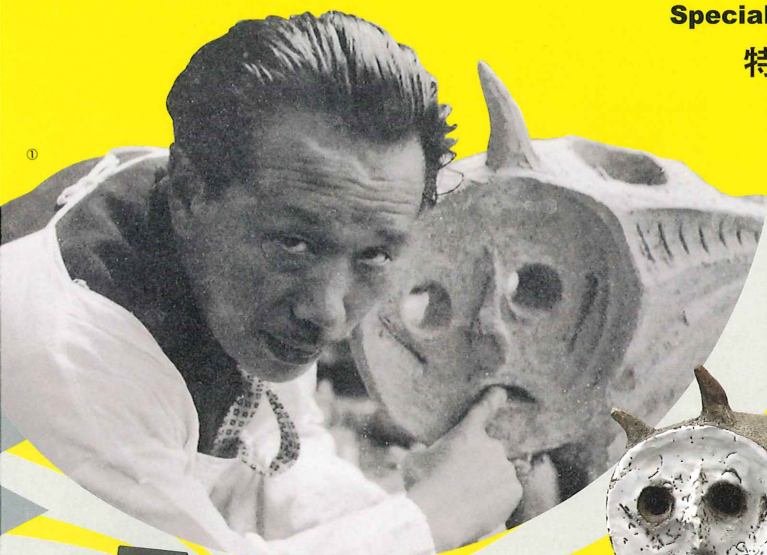


Special Exhibition

特別展



大衆にじかに
ぶつかる芸術を

Taro Okamoto

岡本太郎 アートの実

Dreams of Art

～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形



2023
Part I 7.15 sat — 9.24 sun

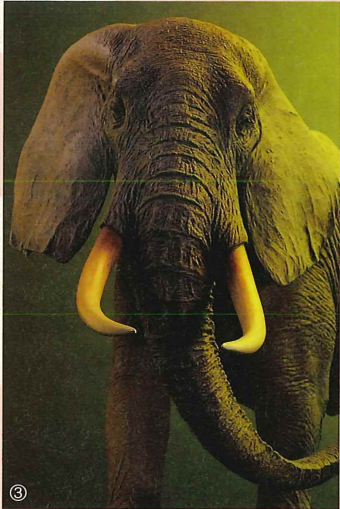
Part II 9.30 sat — 12.17 sun

開館時間/9時30分～17時(入館は16時30分まで)
休館日/毎週月曜日 ※7月17日・9月18日・10月9日(月・祝)は開館し翌日振替休館
入場料/一般700円(560円)、高大生530円(420円)、中学生以下無料
※()内は20人以上以上の団体料金

主催/滋賀県立陶芸の森
後援/滋賀県教育委員会 甲賀市 NHK天津放送局 京都新聞
協力/大塚オーミ陶業株式会社 滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場 京セラ株式会社
株式会社カブコン 株式会社ニトロプラス 株式会社グッドスマイルカンパニー 株式会社SUM ART
株式会社フレア 願不問
企画協力/GILL GILL(株式会社ディーブケース) ほっぺふき子

①岡本太郎 1954年 常滑での制作風景 写真提供/川崎市岡本太郎美術館
②大塚製業株式会社Hi-2タワー「躍動する生命」1983年(2000年改修)/原画:岡本太郎 制作:大塚オーミ陶業株式会社 撮影:杉本賢正
③岡本太郎「犬の場巻」1954年/滋賀県立陶芸の森陶芸館 ④塚田貴士「それいけ!レッサ〜くん」2021年/個人蔵
⑤藤本圭紀「The Garden〜Take your time〜」2021年/個人蔵
⑥大山竜「大空の王リオレウス」2007年/GILL GILL 蔵 ©CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

滋賀県立 陶芸の森 陶芸館



- ①滋賀県庁本館「アカンサス紋レリーフタイル」1939年／制作：鍋要合名会社・指導：滋賀県立窯業試験場 撮影：杉本賢正
- ②近江化学陶器株式会社／原型：岡本太郎「むすめ」1960年代中頃／個人蔵／撮影：江藤太亮
- ③竹内しんぜん「アフリカゾウ」2018年／個人蔵 ©2018 Shinzen Takeuchi
- ④九千房政光「大日如来胸像」2018-19年／個人蔵
- ⑤川田知志「ノーサイド」2017年当時／撮影：恰土鉄夫（※参考画像）
- ⑥真辺菜月「CREA MODE」刀剣乱舞ONLINE 和泉守兼定 FAN ART ©2015 EXNOA LLC/NITRO PLUS
- ⑦株式会社陶光庵／原型：岡本太郎「坐ることを拒否する椅子」1990年頃／甲賀市蔵

関連企画

- (1) フィギュアの原型師(出品作家)らによる**ガチャガチャ企画**が実現！
人気の原型師たちのフィギュアのガレージキットがガチャガチャに！
- (2) **対話の森** 大山竜(原型師)×館長 松井利夫
日時：10月8日(日) 14:00～15:30
会場：信楽産業展示館信楽ホール
応募方法：電話・FAX・Emailで
- (3) **つつっこプログラム 子ども特別講座**
 - ① 7月29日(土) タヌキの花入れをつくろう！ 講師：岡田 南央
 - ② 7月30日(日) X'マスランプシェードをつくろう！ 講師：灘 さとみ
 - ③ 8月5日(土) 動物の宝物入れをつくろう！ 講師：津守 愛香
 - ④ 8月6日(日) マイキャラクターをつくろう！ 講師：橋 功一郎

*くわしくはHPをご覧ください
- (4) **ギャラリートーク** 8月20日(日)、10月15日(日)、11月19日(日)
13:30～【申込不要・入場券要】

次回展覧会

「リサーチソン展 知られざる創造の世界～クラシックな名作とともに～」
2024年3月2日(土)～5月26日(日)

Taro Okamoto

岡本太郎 アートの夢

Dreams of Art

～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形

大衆にじかに
ぶつかる芸術を



信楽との出会いからはじまる、 岡本太郎のアナザー・ストーリー

岡本太郎のやきものによるパブリックアートへの挑戦は、1952年に常滑で制作したモザイクタイルに始まります。翌年には国際デザインコミッティーでグッドデザイン選定に関わり、ピカソが〈やきもの〉制作をしていた南仏の工房を訪れています。こうした活動をとおして生活とモノの関係について思索を深め、《芸術の大衆化》を探り始めます。1954年に常滑で手掛けた「犬の植木鉢」は、そのイメージが形となった作品といえるでしょう。

そして1960年代以降、「坐ることを拒否する椅子」や大阪万国博覧会の太陽の塔「過去の顔(黒い太陽)」などの代表作を信楽で手掛けてきました。その思いは今日も、公共空間を飾る陶レリーフや美術陶板など、陶産地・信楽のモノづくりのなかに息づいています。

21世紀の今、さまざまなアートの息吹その先へ

岡本太郎が世を去り四半世紀、アートは私たちにより身近になりつつあります。海外からも注目されるフィギュア造形、岡本太郎作品を壁画家・川田知志が新解釈し、公共空間へ展開する壁画など、岡本太郎が想い描いた夢の先、21世紀アートの息吹を見つめます。

【序 章】近代建築と装飾陶器のはじまり

【シーン1】建築と現代アートの融合

【シーン2】岡本太郎が目指したアートの大衆化

【シーン3】21世紀のフィギュアの世界-新しいアートの息吹…原型師たち
石崎紗央里 / 植田明志 / 榎木ともひで / 大島雅人 / 大山竜 / 九千房政光 / さと / 竹内しんぜん / 塚田貴士 / 藤本圭紀 / 真辺菜月(CREA MODE) / 吉沢光正 / ゆま

【シーン4】川田知志「太郎の色とカタチ×パブリック」
part2で展示(陶芸館ギャラリー)



- 公共交通機関
 - ・「JR草津駅」より草津線乗り換え「貴生川駅」下車、信楽高原鉄道乗り換え「信楽駅」下車、徒歩20分(約75分)
 - ・信楽高原鉄道「信楽駅」より甲賀市コミュニティバス「陶芸の森前」または「陶芸の森(陶芸館前)」下車(約5分)
- 自動車
 - ・新名神高速道路信楽I.C.から約8分
 - ・駐車場(無料) 普通車約250台 大型バス約10台



〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勲旨2188-7
TEL:0748-83-0909 / FAX:0748-83-1193
Web: http://www.sccp.jp